

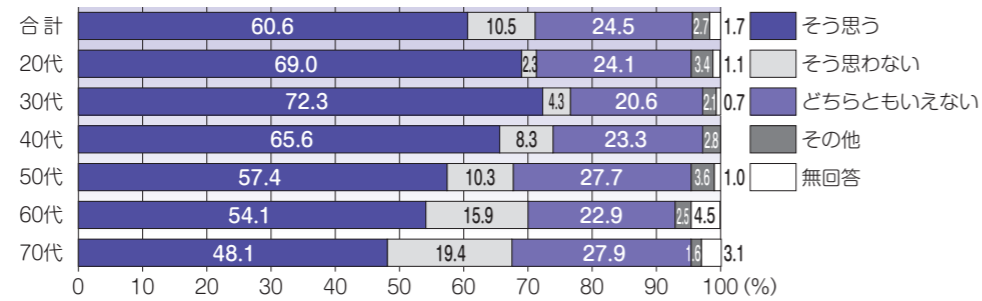
男女共同参画へ町民が心一つに

男女共同参画社会づくりに関する生活実態や意識を把握し、男女共同参画推進条例(仮称)制定に向けての基礎資料とするために町民意識調査を行いました。この調査結果をもとに効果的な施策を行い、住みよいまちづくりを進めていきます。



○「男性も子育てや介護・家事に関わり、家庭と仕事の両立を図るようにしたほうが良い」という考え方

全体で見ると「そう思う」が60.6%と半数以上を占めており、意識が高いことが伺えます。



○「子どもをどのように育てたいか」

男の子・女の子ともに「思いやりのある子」が半数以上を占めています。

○「子どもにどこまでの教育を受けて欲しいですか」

男の子・女の子ともに「本人の意思にまかせる」次いで「大学・大学院」となっています。

○家族に介護が必要になったとき

○あなたの体が不自由になったとき

本人・家族ともに「自宅で、福祉サービスなどを利用しながら介護する」が多く、次いで「病院や介護施設などを利用する」となっています。

○家庭の行事(法事など)の負担

男女共に女性の負担が大きいと感じています。

Ⅲ 就業について(3問)

○職場での男女平等

「採用条件」「能力評価」「仕事の内容」「研修の機会や内容」「長く勤めること」について、多数が平等であると感じています。しかし、「昇進や昇格」については「男性が優遇されている」と多く感じており、「育児休業・介護休業の取得」は「女性が優遇されている」と多く感じています。

○女性が職業をもつこと

全体で見ると「結婚・出産にかかわらず、職業を継続するほうがよい」が多く、次いで「結婚または出産後は、家事・育児に支障のない働き方にかえるほうがよい」と続いています。

しかし、女性の20歳代から40歳代では「結婚または出産後は、家事・育児に支障のない働き方にかえるほうがよい」と多く感じています。

○男女がともに仕事と家庭を両立していくために

「男女とも育児・介護休業制度などを取得しやすい環境づくり」が最も高く、次いで「家族や周囲の理解と協力」、「保育施設や保育時間の延長など保育サービスの充実」と続いています。

※町民意識調査の結果は広報2月号・3月号の2回に分けて掲載します。詳しい内容は町のホームページでも公開しています。

<http://www.town.echizen.fukui.jp/webworks/web/index.jsp>

問合せ先 男女共同参画室 ☎34-8715

▼ 調査のあらまし

- 調査対象 町内在住の20歳代から70歳代の男女2,000人(無作為抽出)
- 調査期間 平成21年8月26日～9月25日
- 回答状況 886人(44.3%) 男性371人、女性515人
- 調査内容 基本項目7問、設問23問

▼ 調査結果の概要

I 男女共同参画に関する意識について(3問)

○各用語の知識

男女共同参画の基本用語である「男女共同参画社会」の認知度は77.4%と高く、越前町関係では「えちぜん男女共同参画プラン」が39.2%、「えちぜん男女共同参画のつどい」が44.1%、「越前町男女共同参画都市宣言」は26.8%の認知度となっています。

○男女の地位の平等性

「家庭生活の中で」「職場の中で」「地域活動の中で」「政治の中で」について「男性が優遇されている」が男女共に半数以上を占めています。「法律・制度の上では」について、男性は平等であると多く感じており、男女の意識に相違がみられます。

唯一「学校教育の場では」は「平等」とする割合が「男性優遇」とする割合を上回った結果となっています。

○男女共同参画とは

「家庭や社会における物事を男女協力して行うこと」「一人ひとりの人権が尊重されること」「性別にしばられないこと」と高い割合で認識されています。

II 家族生活等について(7問)

○「男は仕事、女は家庭」という考え方

全体で「賛成」とする肯定派は11.7%と少なく、「反対」とする否定派は28.1%となっています。ただし、「どちらともいえない」が54.1%と半数以上を占めており、仕事と家庭を男女で分けることは男女共に適切でないと考えていることが伺えます。

